

<理事長のお話>

<人間と真実の生き方>

<世界平和の祈り>

<由佳先生のお話>

○皆様、おはようございます。いつも皆様のお姿を見られるのは幸せです。今日は雨と言われていましたけれども、お日様が本当に私たちをお迎えくださっていて、神々様が私たちの祈りを本当に待っている、そのような感じを本当に富士聖地から感じております。

○今日は雨かもしれない、それでも来ようと思われる皆様は、本当にご自身の天命を真面目に、まっすぐお分かりになられ、今日もまた各地、そして世界のために祈ろうということであらしている方々だと思っております。

○場合によっては、「行きたくないけど、何か連れられちゃって」とか、「断れなくて」とか、そういう方もいらっしゃるかもしれません。

○そういう方々には、すごく強力な守護霊様・守護神様がいらっしゃる。そして守護霊様・守護神様が、皆様の本来持っているすごい力と天命を力強く支えてくださっている。

○いずれにせよ皆様は、本当に素晴らしいお働きを今生に持って生まれてきていて、それゆえに今ここに座られているということだと思います。

○理事長がおっしゃられていたように、今、日本各地でも世界でも、温暖化による様々な災害であったり、地震、浸水、またニュースで伝えられる様々な状況が本当に起こっています。

○その中で改めて思うことは、決して犠牲ではないということです。自分の命を捧げて人を助ける——そういうふうには規定するわけではないのですが、その次のレベルには、やはり自分自身の素晴らしい天命、神聖に気づくということがあります。

○自分の神聖をすごく大事にするがゆえに、自分の持った神聖を最大限に発揮して、世界に、人々に捧げてゆく。その意識で働く素晴らしさを、私は白光にいて会員の皆様にお会いすると、改めて感じずにはられません。

○だからこそ、こうやって神々様が応援して、国津神様も皆様のその純粋な働きを応援してくださる。神聖を自覚して、まっすぐ天と繋がるがゆえの祈りの持つ強さ、すごさ、影響力というのを、私は皆様を通して日々実感させていただいています。

○皆様は今日この瞬間、全員で真剣に自分自身の神聖を自覚して、その自分自身の神聖の働きや力を全力で、神々と共に、この地球人類に、そして地球全体の命に捧げてゆくのです。世界の平和を祈るのです。

○でも、それで終わりではないんです。その後、その光を浴びた皆様が、そして全身で祈りの響きを浴びた皆様が、また全国各地にお戻りになられる。

○今日は秋田からいらっしゃったという方もいらっしゃいましたけれども、東北や北海道、沖縄、あるいは九州——皆様が今この全身で浴びた光が、祈りの平和のエネルギーが、ご自宅・地域にお戻りになられるときに、本当にそこにもまた還元されてゆく。

○ファーツと光が、また皆様お一人お一人の存在を通して響き渡ってゆく。このすごさ。その背景に多くの神々様が感謝され、応援してくださっていて、その地域の神々様もきっと喜んでくださる。

○そういう働きをしに、今日皆様はお越しくださっている。本当にそこに深々と感謝と尊敬を捧げます。そして、そういう皆様と一緒に真剣に祈れる一瞬一瞬を大事に、今日もまた過ごさせていただきたいと思っております。

○司会の方からも、理事長からもありましたけれども、今日は世界からお越しになられているゲストがいます。昌美先生がおっしゃられていた世界が、本当に少しずつこうやって形として見えてきていると思います。

○SOPP では、こちらがいろいろな海外の方々をご招待したりお招きした

ります。もちろん来賓の方や宗教者などは、こちら側で負担させていただきますけれども、今日は SOPP ではなく、白光の大事な祈り——世界のために、日本のために、人々のために、地球・自然のために祈る、そのための行事です。

○その行事に来たいとおっしゃる、もちろん海外在住の会員の皆様もいらっしゃいますけれども、海外の会員でない方もまた今日お越しです。

○そうやって一人、また一人と、私たちの平和の祈りの響きの仲間になって、共に祈ってくださる方が世界中からお越しになる。

○また、皆様も同じなんです。今日皆様の祈りの光を浴びて、また彼らもご自身の国にお帰りになられます。

○今日聞いている限りでは、アメリカからいらっしゃる方、ヨーロッパからいらっしゃる方、イスラエルからいらっしゃる方、ウクライナからいらっしゃる方々がいます。

○その方々がまた国に戻られるとき、皆様と一緒に祈った今日の光、今日の皆様の祈りの響きが、また彼らを通して彼らの国に届いてゆく。

○それだけ私も願いたいのですが、すべてに意味があって、今日いらっしゃる人たちに偶然はなくて、すべては必然で、その役目もみんながしっかりと果たしているというのを感じさせていただいています。

○今日も皆様、どうぞよろしくお願いいたします。

<七つの言霊の宣言－由佳先生>

- 1.世界がいかに広くても、自分と同じ人間は他に存在しないのだ。
- 2.ゆえに〇〇〇〇は、今を真剣に生きるのだ。
- 3.そのためには、過去における自らの思い込みを捨てるのだ。そして、今を真剣に生きるのだ。今この瞬間が尊いのだ。
- 4.他人に振り回されるな。神聖なる自分は振り回されるわけがない。
- 5.毎日の人生を真剣に最後の日として過ごすのだ。

6.そして自分の神聖なる道を、全人類の平和と幸せのために、まっすぐ進んでゆくのみ。

7.やがて神命を終え、五井先生が地上にお迎えに来られ、輝かしい神界へと導かれ飛翔してゆくのみだ。

<日本全国と世界の各大陸に向けて祈り、それぞれの国や地域に神聖復活の印を組む時間>

<「神聖ファースト」の意識を自分の中に刻み込む特別プログラム>

【真妃先生】

○今日もご参加いただきまして、誠にありがとうございます。

○皆様と共に「世界人類が平和でありますように」という祈りを、こうやって富士聖地で祈れることが、どれだけ尊いことか、ありがたいことか。

○本当に皆様方お一人お一人の存在を感じながら、神聖復活の印と一緒に組むこと、画面上ではなく、本当に触れ合いながら組むことが、こんなにも幸せなことなのかということを感じながら、今日は日本のお祈り、世界各国のお祈りをさせていただきました。

○「世界人類が平和でありますように」——このお祈りは、世界の平和を願う祈りであると同時に、ここにいる皆様方お一人お一人、私たちひとりひとりの中にある神聖を目覚めさせ、そして世界中の人々の中の神聖を目覚めさせる祈りでもあります。

○ある人が、パンを作るときのイーストの話を教えてくれました。

○パン作りをされた方がいらっしゃるかもしれませんが、パンは小麦粉や卵、ミルク、バターなどを混ぜた後に、一番少ない量なのですが、イースト菌——今はイーストを入れないで酵母菌を入れるときもありますけれども——そういう菌を本当にちょっとだけ入れますよね。

○その菌がない限り、パンはいくら焼いてもカチカチのパン。小麦粉は小麦粉のままだし、バターはバターのままだけれども、このイースト菌、酵母菌を入れると、小麦粉やバターやミルクを繋げてくれた上に、パンをふっくらと膨らませてくれて、私たちが食べる美味しいパンになります。

○パンを食べたときに、イーストはその存在を主張しない。「私のおかげでこのパンがふっくら膨らんだよ」とか、「私がいるからこのパンが美味しくなったんだよ」ということは一切主張しない。

○とても大切な役割をするけれども、出来上がった最後は、自分のその姿を消し去って、ただただ出来上がったものをみんなに喜んで食べてもらう。

○そんなイーストの存在のことを、「私たちがしている祈りに近いね」と言ってくれた人がいます。その人に言われて、私たちの祈りもすごく似ているなと思いました。

○「世界人類が平和でありますように」というこの祈りが、皆様方お一人お一人、そして私たちひとりひとりの中を通して響くとき、普段は表に現われてこなかった人々の優しさや愛や調和、勇気や命の輝きが、その人の中から静かに静かに引き出されて、溢れてきます。今この会場も、それがすごく溢れています。

○祈っている本人にも、その祈りに触れた人にも、何が起きたか分からない。でもこの祈りのおかげで、何か少し心が優しくなり、ここにある雰囲気優しくなり、誰かが誰かを思い合ったり、人と人との間に新しい繋がりが生まれたりする。

○祈りは自分の姿を残すことはなく、人と人を平和で繋ぎ、人の中にある神聖を引き出してゆく。

○今日皆様方がここから世界へ放った祈りも、きっとそのような目に見えないところで人々の神聖に触れて、また人々の神聖を引き出しながら、世界へ、そしてもっともっと広い世界へと響いているんだろうなと思います。

○なので、この後のお時間は、その響きを世界に響かせた皆様ご自身が、今度はその世界から、美しい祈りの響きを受け取るお時間になります。

○リラックスして、今本当に真剣に祈りを捧げた皆様ご自身の神聖と、皆様ご自身の肉体を癒すお時間に使っていただければと思います。

○海外の方もいらっしゃるので、ここで要約した形で今のお話を英語にし

ますけれども、その間、皆様はこの富士聖地の光を感じ、大自然のエネルギーを感じ、皆様方の神聖に「よくやったね」「よくこの場に来られたね」「よく世界に祈りを届けたね」と、本当にご自分自身をねぎらう、そんなお時間にしていきたいと思います。

○英語を訳している間、そのように富士聖地と繋がり、皆様方の神聖と繋がるお時間にしてください。

○それではここから皆様、よければ静かに目を閉じていただいて、もし周りにスペースがあるのでしたら、ぜひ横になっていただき、大地のエネルギー、そして風のエネルギー、太陽のエネルギー、緑のエネルギー、そして皆様の肉体のエネルギーを、全身全体で感じていただければと思います。

○座っていただいてもいいですので、皆様が安心してリラックスできる形で、静かに静かに世界へ向けてきた意識を、少しずつ自分自身の中に戻していただければと思います。

○ゆっくりと息を吸っていただき、ゆっくりと息を吐いてください。

○富士聖地の空気を体いっぱいにするように、息を吸ったり吐いたりしていただきながら、神聖な響きをたくさんたくさん皆様方の肉体に取り入れてください。

○そして呼吸をしながら、今日ここで世界の平和を願い、祈り続けてくださった皆様ご自身を感じてみていただきたいと思います。

○世界へ祈りを送り続けてくれたその自分自身と、静かに静かに繋がってみてください。

○そして今、その自分自身にそっと問いかけてみてください。

○「私の祈りから、どんな神聖な光が世界へ放たれたのでしょうか」

○どうでしょうか。

○その神聖な光は、外から与えられたものではなく、もともと皆様ご自身の中にあったもの、皆様方の奥深くにずっとずっと存在していたものです。それが引き出され、皆様方の存在を通して世界へ放たれていったので

す。

○祈りによって引き出されたもの、それが皆様方の神聖そのものです。

○そして今日皆様方が世界へ放った神聖の光は、世界だけを照らしているのではありません。その光は、皆様ご自身にたくさんたくさん降り注いでいます。

○皆様方から放たれた神聖の光に、皆様ご自身が包まれている。光が皆様ご自身の体を満たし、心を満たし、今静かに自分という存在全体を包み込み、満たしてくれている。

○この神聖な光を体全身で受け止め、感じてください。

○神聖は、どこか遠くにあるものでも、どこからか手に入れるものでもありません。神聖は、今ここにいる自分、今生きている自分、この私という存在そのものの中にあるのです。

○今この瞬間、その皆様の中にある神聖を静かに感じてください。

○今日世界の平和を祈った自分、祈りを通して平和と光を世界へ届けた自分、その神聖な自分に、心からの感謝を捧げてください。

○世界人類が平和でありますように。私たちの中の神聖がますます溢れ現われますように。そして私たちを通して生まれた平和の響きが、また誰かの神聖を目覚めさせますように。

○皆様方のタイミングで目を開けてみてください。

○最後に、ここにいるお一人お一人の神聖な響きを重ねて、もう一度皆様方と世界へ祈りを届けたいと思います。

○静かに目を開けていただき、横になったままでもいいですし、座っていただいてもいいです。皆様方と世界平和のお祈りを最後に届けたいと思います。

○皆様方が放ち、皆様方が受け取った尊いお働き、尊い器、尊い存在に、皆様方お一人お一人の存在に、心から感謝申し上げます。

<世界平和の祈り>

＜昌美先生のお話＞

○皆様、ごきげんよう。しばらくでございます。皆様のお元気なお姿を見て、大変に嬉しく思っております。

○この富士聖地まで、高いお金をお出しになり、そして長い時間をお使いになり、年に何回か、こちらへいらっしゃる。それを計算すると大変でございます。

○でも、よくぞ皆様こうやってお越しくださったことに、私は改めて心から深く感謝申し上げます。

○私とても、皆様方の存在あってこそその私であり、皆様方と共に世界平和の祈りを祈り続けてきた、その成果がここに存在するのでございます。

○「皆様方あっての私だ」と、いつも常に皆様方の存在に感謝申し上げます。

○皆様方は最後までお元気で、私と一緒に頑張って平和のために支えてくださった、立派な方々でいらっしゃいます。

○これからも共に歩んでまいりましょう。また、よろしくお願いいたします。

＜真妃先生からのお知らせ（五井平和財団フォーラムのご案内）＞

＜裕夫先生・昌美先生のお話＞

【裕夫先生】

○皆さん、こんにちは。今日はちょっと話が短かったので、少し私もお話をすることにいたします。

○今、真妃の方から話がありましたけれども、今年6月の五井平和財団の理事会・評議員会で、真妃が次の理事長に選任されて、私が会長になって、昌美が名誉会長になるという、ジェネレーションの交代の時期を迎えました。

○ちなみに、メイ・ピース・プリベイル・オン・アース・インターナショナルの方も——今までずっとソサエティと言ってきましたけれども——こ

こも里香が引き継ぐということになって、新しい世代がこれから中心になって、平和活動を推進してゆきたいと思っております。

○ですから、今まで私どもにいただいたサポートを、ぜひ今度は若い世代にいただければありがたいと思っております。

○今、真妃の方から決意表明を聞きまして、安心して引き継いでもらえるなという気持ちです。

○今回のフォーラムは、ある意味、新理事長のお披露目という意味もありますので、会員の皆さんにたくさん来ていただいて、その船出を応援していただきたい、サポートしていただきたいと思いますので、よろしくお願いしたいと思います。

○今日は海外からもお客さんが来ています。後で紹介があると思いますが、ソサエティに関しては、ずっとアメリカを守ってくれたフミ・ジョーンズさんと、それからスコットランドのアラントン聖地をずっと守ってくれたキャロライン・オチマさんも、今日来てくれています。

○本当に会員の方たちのサポートによって、ここまで我々は来られたんだと思います。

○ただ、これからがまた本当に大変です。今の世界の状況をご覧になっても、本当に大変な状況です。

○ここから、いかに私たちの本当に地道な日頃の祈りと努力によって、平和の方向に切り替えてゆくか、新しい未来を作ってゆくか、そういう時期に来ていると思います。

○私たちの仕事の大きな部分というのは、ネットワークを作ってゆくことです。つまり、同じ平和に向けて世界中で頑張っている人たちと繋がり合って、大きなネットワークを作ってゆくことが、我々の最大の仕事のひとつだと思います。

○そういう意味では、我々は20何年間、いや40何年間、ずっとそういう形で地道に海外とのネットワークを作ってきました。

○僕らは一つの繋がりを作るために海外に行って、そこで話をして、お互

いに心を通じ合って、このネットワークを一つ一つ紡いでゆくという形で進めてきました。

○でも今、若い世代は、テクノロジーの発展もあって、あっという間に繋がりを作ってゆくんですね。これは驚くべきスピードです。

○ですから、我々のやり方と新しい世代のやり方は全く違ってきていて、これは本当に期待できる。しかも若い人たちの中に、平和に向けた意識の高い人たちが世界中にたくさんいるんですね。

○そういう人たちと、次の世代がいかにネットワーク、繋がりを作って、大きな平和への広がりを作ってゆくか。それがこれからの時代だと思っています。

○もちろん我々も命ある限り全力でベストを尽くしますが、特に若い世代が中心になってこれからやってゆくわけですので、皆様方のご協力を今後ともよろしくお願い申し上げます。

【昌美先生】

○本当に皆様方会員さんのおかげで、私もここまでやってまいりました。

○自分で過去を振り返ると、本当に自分一人ではこんなことはできません。

○会員さんお一人お一人がみんな協力して、そして会員になられて、お互いに五井先生のみ教えを信じることによって、それを広めることによって、世界中が平和になってまいりました。

○これも皆様方お一人お一人——こちらにいらっしゃっている方々も、またお亡くなりになった方々も、またご自宅で画面を見て感動していらっしゃる会員の方々も、たくさんいらっしゃいます——そういう皆様方のおかげをもちまして、私どもはこうやって無事にやってまいりました。

○ここにいらっしゃる皆様方のサポートなくしてはありえません。

○本当にお忙しい中、遠い中、世界から、日本国内の北海道から九州から、あらゆるところからお出ましいただいた、そのご努力に心より深く感謝申し上げます。

○いよいよ世界が一つに繋がる平和の国。それは本当に皆様方が心からお作りになったものでございます。

○心からお喜び申し上げながら、この言葉を述べさせていただきました。本当にありがとうございます。

<由佳先生のお話・海外からのゲストのご紹介>

【由佳先生】

○今、最後に裕夫先生に「訳は？」と言われて、「え？」と言ってしまいました。ごめんなさい、全然訳す気がありませんでした。失礼いたしました。

○あと、「若い世代、若い世代」と言っていて、本当にこれから頑張らなきゃと思いながら、若い世代の私たち3人もアラフィフです。

○本当の意味の若い世代、次の世代をまた育ててゆけるように、私たちは全力で託してゆきたいと思っています。

○そんな中で、今日は HSK のブースなどもあるので、本当の意味で 40 代以下の方がこの会場にいらっしゃったら、ぜひとも HSK のブースにお寄りくださいませ。

○そして、最後に今日お伝えしたかったことですが、先ほどから整列されている海外からいらした方々に、一言ずついただきたいと思います。

○（イタリアからのゲスト）イタリアから来ました。私たちリビング・エシックスは、全く皆様と同じように、高い次元を降ろして祈るということをやっているので、今日皆様と共に祈りできたことをすごく嬉しく思っております。

○（ゲスト）気持ちは一緒です。ありがとうございます。

○（ゲスト）MPPI と共に働ける、協働できることをすごく幸せに思っていて、世界中の人々が一心に共に祈るという活動の中で働いています。今日もありがとうございます。

○（アメリカ・ロサンゼルスからのゲスト）アメリカのロサンゼルスから

来ました。ナナマルの卒業生です。皆様のお祈りは、本当にもう信じられないくらいすごいと思っています。いつも海外で感謝の気持ちでいます。本当に世界のために祈っていただけるということだけでも、海外に住んでいるとすごく感じるんです。本当に感謝しております。ありがとうございます。

○（アメリカ・シアトルからのゲスト）アメリカのシアトルから来ました。私もナナマルの卒業生で、10年ぶりくらいなのかなと思います。久々なので、心臓が飛び出しそうな気分なのですが、海外、特にアメリカは波が強すぎて、時々もう受け入れられないということがあります。

○改めて、昌美先生が教えてくださった人類即神也の宣言文の言葉に、すごく助けられています。宣言文はものすごく昔からあったのに、今すごく通用している。助けてもらっている。それを私はアメリカに42年住んで、今感じています。

○同じように昌美先生に感謝しています。皆さんが日本から祈ってくださるエネルギーとバイブレーションは、アメリカに届いています。確実に届いています。アメリカの私たちだけではできないので、どうぞこれからもお願いいたします。

○（ウクライナからのゲスト・通訳）今、ウクライナは本当に非常に難しい状況にあります。彼自身が今日この場に来る、ここに立つこと自体がすごく勇気があることでした、と。皆様の存在に心からひれ伏して感謝を申し上げる、ウクライナの市民を代表して自分が皆様に感謝を申し上げる、とのことです。

○（ロサンゼルス・テコンドーのマスター・通訳）私はロサンゼルスに住んでいるテコンドーのグランドマスターです。テコンドーは、世界平和の祈りと同じように、私たちがやっているのと同じ精神で教育していくものなので、今日ここに初めて来ましたけれども、こういう祈りができたことをすごく感謝していますし、光栄に思っています。

○（ロサンゼルス支部のゲスト）1986年、ロサンゼルスでフラッグセレモニーが初めて行われたと思います。そのときに参加して、日本の方たちが大韓民国の平和のために祈る、それを見たんです。それを見て感動して

涙が出て、何も言葉が出なかったんですよ。

○それ以来、「世界人類が平和でありますように」という祈りがどれほど素晴らしいことか、国境を越えて、人種を越えて、もうこんなに素晴らしい祈りはないと思って、韓国人で唯一の講師にまでなりました。

○私もアメリカに住んでいますので、縁があつてのことだと思い、一生懸命この五井先生の手紙の精神、世界平和の祈りを韓国のコミュニティに伝えていきますし、日本のメンバーの方たちと一緒に世界平和の祈りを祈ってきました。本当に、この祈りがなかったら私の人生はどういう人生だったんだろうと思います。

○（ロサンゼルス支部のゲスト）私もロサンゼルス支部から来ました。ロサンゼルス支部で印を組むときに、いつもこの富士聖地の旗、世界の国旗を思い出しながら、ここのカラスのカーカーという声を思い出しながら、ずっとここを頭に描きながら印を組ませていただいています。今日の深夜便でロサンゼルスに帰るので、またこのエネルギーをそのまま持っていきたいと思っています。

○（イギリスからのゲスト・通訳）皆様のお祈り、持続されたお祈りのおかげで、私たちも継続して活動することができます。いつもありがとうございます。

○（ラスベガスのゲスト）最初ロサンゼルスでスタートして、ロサンゼルス支部からラスベガス集会を主催しております。講師も拝命いたしました。この活動を日本の会員の皆様とご一緒に、様々な経験をさせていただいています。言葉に表せないような活動を、毎回感動と胸がいっぱいになる気持ちで続けております。皆様、本当にありがとうございます。

○（デンマークからのゲスト・通訳）皆様の前でお話しできることに感謝申し上げます。皆様の日々の絶え間ない祈りに、心から感謝申し上げます。いつもありがとうございます。

○（ゲスト・通訳）まず、守護の神霊に心から感謝しています。今朝ここに来られて、白光の働きができたこと、皆様とお祈りできることに本当に感謝しています。

○（イギリス在住のゲスト）シャンティータと申します。インドでいただいた名前で、現在はイギリスに住んでおります。このような波動の高い場所で祈りをさせていただきまして、本当にありがとうございます。

○（オーストラリア出身・フランス在住のゲスト・通訳）オーストラリア生まれのフランス在住です。2006年にナナマルを卒業しておりますので、ちょうど今年で20年の節目になるんですけれども、皆様の世界の平和のお祈りに感謝するとともに、私もその皆様の一部にさせていただけることを幸せに思っております。ありがとうございます。

○（イスラエルからのゲスト・通訳）世界人類が平和でありますように。皆様に感謝を申し上げます。

○（イスラエルからのゲスト・通訳）一緒に旅をしていて、初めての日本です。今日ここに来られたことを光栄に思っています。希望をもらいました。そして自分自身の平和への希望を、皆さんからもらうことができました。ありがとうございます。

○海外からお越しの皆さん、本当にありがとうございました。

○なかなか一緒に祈る機会というのはないですけれども、一緒に祈るときは本当にひとりひとりであり、仲間です。皆様にとっては、海外からいらっしゃるその姿に感動しますけれども、海外の方々にとってはいつだって、こうやって日本で祈り続ける皆様の姿が希望であり勇気であるということを、本当にまた今日のメッセージからも感じたと思います。

○今日はアメリカをはじめ、イスラエル、ベラルーシ、ウクライナ、韓国、フランス、オーストラリア——本当にこういう国の人たちが、皆様がこの日本でずっと絶え間ない祈りを捧げてくださることに、本当に心から感謝されていました。

○なので私たちもその感謝をしっかりと受け取って、真妃先生が言うように、この神聖を実感して、そこに戻ってお祈りをしてゆきたいと思います。

○今日は皆様、ありがとうございました。

<閉会> 以上